

# 令和3年度 少年の主張 島根県大会 報告書

JUVENILE CLAIMS SHIMANE CONVENTION

## 第50回 島根県少年弁論大会

(動画審査会)

中学生の  
今の言葉で  
伝えたいことが  
あります

令和3年

日  
時

9月28日(火)

10:00~15:00

場  
所

主会場 島根県教育センター浜田教育センター  
第3研修室

〒697-0023 島根県浜田市長沢町1550-1

松江会場 島根県人権啓発推進センター  
研修室

〒690-8501 島根県松江市殿町128

主催／青少年育成島根県民会議、島根県中学校長会(主管：浜田市中学校長会)

独立行政法人 国立青少年教育振興機構

共催／浜田市教育委員会

後援／島根県、島根県教育委員会、島根県警察本部、浜田市、浜田青少年健全育成推進会議

金城地域青少年健全育成連絡協議会、青少年育成三隅町民会議、あさひ子ども健全育成協議会

島根県PTA連合会、浜田市PTA連合会



青少年育成島根 県民会議  
キャラクター  
ハピネス

# はじめに

今大会は1972年（昭和47年）に島根県少年弁論大会として第1回目が開かれ、今年50回目の節目を迎えました。弁士の中学生も延べ1,000人を数えます。皆さんとともに歴史と、その栄誉をたたえたいと思います。

第1回島根県少年弁論大会の7年後、1979年に第1回少年の主張全国大会が開催されました。この年は、国際児童年です。世界中の人々が子どもの権利について考える機会になった年です。

ユニセフは、子どもの権利を、生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利の4つにまとめています。4番目の参加する権利とは、意見表明の権利ともいわれます。

子どもは、自分に関係のあることについて自由に自分の意見を表す権利をもっています。その意見は、発達に応じて、十分考慮されなければなりません。

先年、ニューヨークで開かれた「温暖化対策サミット」。ここでスピーチした一人の少女に、世界の注目が集まりました。スウェーデンのグレタ・トゥーンベリさん当時16歳。気候変動が緊急事態にあると訴えるグレタさんは、毎週金曜日に学校を休んで抗議活動を続け、大人たちに本気の対策を要求、世界中の若者たちを動かし、賛同の波が広がっていきました。背景にあるのは、温暖化がこれまで考えられた以上に、急速に進み、深刻な状態＝“気候危機”にあるという事実でした。

いま日本では、少子高齢化、国際化、情報化が急速に進み、環境が目まぐるしく変化しています。次代を担う少年・少女たちには、心身ともに健康で他者を思いやる心を持ち、社会的に自立していける、健やかな成長が求められています。

そのためには、広い視野と柔軟な発想や創造性などと共に、物事を論理的に考える力や、自らの主張を正しく伝え、理解してもらおう力などを身に付けることが大切です。少年の主張島根県大会は、島根の少年・少女たちにとって、これらの契機となることを願い実施するものです。

県内の中学生の皆さん、コロナに負けないで、WITHコロナの思いを新たにして、頑張りましょう！

終わりに、昨年同様、DVD録画による動画審査に取り組んでいただいた審査委員の皆様方、ありがとうございます。また、大会運営にご尽力いただいた浜田市中学校長会、島根県中学校長会をはじめ浜田青少年健全育成推進会議、金城地域青少年健全育成連絡協議会、青少年育成三隅町民会議、あさひ子ども健全育成協議会の方々に厚く感謝申し上げます。

令和3年12月

青少年育成島根県民会議  
会長 高橋 憲二

# 目次

はじめに

大会風景..... 2

審査結果表..... 3

発表作品..... 4

開催要項.....20

審査委員／令和2年度（昨年度）の受賞者.....22

地区大会概要一覧.....23

全国大会出場者・審査結果.....24

全国大会「内閣総理大臣賞」受賞作品.....25

あとがき

# 大会風景



開会式



青少年育成島根県民会議会長 挨拶



動画視聴風景



集合写真 (主会場)



集合写真 (松江会場)



審査会風景



審査委員長 審査結果発表 及び講評



島根県中学校長会会長 挨拶

## 令和3年度（第50回）「少年の主張島根県大会」 審査結果表

賞名	演題 (テーマ)	地区	学校名	学年	ふりがな氏名
島根県知事賞	思い出のランドセル (国際交流)	安来	安来市立伯太中学校	1	とがせ ころも 梅瀬 真心
島根県教育委員会 教育長賞	先生の指と受け容れる勇氣 (生き方)	益田	益田市立横田中学校	2	あだち よう 安立 葉
島根県警察本部長賞	人の強さ (ボランティア)	仁多	奥出雲町立横田中学校	3	ひろはら よしき 廣原 由稀
青少年育成 島根県民会議会長賞	私とあなたで (いじめ撲滅)	隠岐	海士町立海士中学校	1	はたみりな 波多美莉菜
審査委員特別賞	「私」を生きる (生き方)	浜田	浜田市立旭中学校	3	ほり さくら 堀 さくら
〃	未来のために (環境問題)	雲南	雲南市立海潮中学校	3	にった みゆう 新田 美優
優 秀 賞	言葉一つ一つを考えて (誹謗中傷)	松江	松徳学院中学校	3	かみかわ ここみ 上川 心海
〃	私の願い (国際理解)	大田	大田市立第三中学校	3	たけしませ れな 竹島世麗奈
〃	友達は数じゃない (友達)	江津	江津市立江津中学校	2	ささき だいすけ 佐々木大佑
〃	そして、これから (自分の生き方)	出雲	出雲市立平田中学校	3	すとう なるき 周藤 成輝
〃	思いやりのある社会へ (人権問題)	浜田	浜田市立第四中学校	3	なかしま だいき 中島 大毅
〃	ランドセル (国際協力・福祉)	邑智	邑南町立羽須美中学校	3	なかむら みゆ 中村 美結
〃	ポジティブ変換 (生き方)	飯石	飯南町立頓原中学校	2	おかの すみれ 岡野 堇
〃	ぼくの生きる糧 (自己の生き方)	鹿足	吉賀町立六日市中学校	3	すいづ たくろう 水津 拓朗
〃	男のヘアドネーション (人権)	松江	松江市立第二中学校	1	わかつき ゆう 若槻 悠生
〃	祖母のいない一週間 (少子高齢化)	出雲	出雲市立南中学校	3	よしだ さとこ 吉田 哲子

※ 審査委員特別賞、優秀賞については、発表順に記載しています。



## 島根県知事賞

# 思い出のランドセル

安来市立伯太中学校  
1年 梅瀬 真心

みなさんが6年間背負ったランドセルは、今、どこでどのようになっていますか？

私は、姉弟のいちばん上で、小学校に通う妹と弟がいますが、私が6年間使ったランドセルが、一番きれいです。それをもったいなく思ったのか、弟が、来年1年生になる一番下の弟に、「お姉ちゃんのランドセルを使ってもらおう。」と言いました。しかし、私のランドセルは花のししゅうがされた赤い色のランドセルです。姉弟の中で最もかっこつけている一番下の弟は、

「絶対に嫌だ。」  
と即答しました。

その時、母が  
「ランドセルは、ペンケースや財布にリメイクして、思い出としてとっておくこともできるし、寄付することもできるよ。」  
と言いました。

「寄付」と聞いた時、不思議に思いました。毎年1年生が新品でキラキラしたランドセルを背負っているのを見てきたので、6年間使い古したランドセルを使う子なんているのだろうか。すると母は、あるホームページをみせてくれました。そこには、  
『使っていないランドセルを宝物にしてくれる子たちがいる』  
と書かれていました。それは『思い出のランドセルギフト』と言います。

『思い出のランドセルギフト』は、日本からアフガニスタンにランドセルを寄付する国際支援活動です。特に教育の機会に恵まれない女の子の就学に役立つそうです。なぜ、特に女の子なのか。アフガニスタンでは、長く続く紛争やテロなどにより、いまだ多くの子どもが学校教育を受けられていません。そのため、女の子は男の子に比べて教育を受ける機会が少なく、2人に1人しか小学校に通っていません。家の手伝いをする事、早くに結婚する女子が多いこと。他にも、女の子の教育に対する理解が得られないなど、女の子が学校に行けない理由を知ると、日本の文化とは大きな違いがありました。

私は小学校4年生の時、国語の授業でアフガ

ニスタンのことを学びました。その物語を発表会の劇で演じたので、とてもアフガニスタンのことが印象に残っていました。戦争など、今の自分の生活からは想像もできなかった世界を、いつも私の近くにあったランドセルが、アフガニスタンという遠い国と近づけてくれる気がして、私はランドセルを寄付することを決めました。

日本中から集まったランドセルは、新しい勉強道具と一緒に箱につめられ、船でパキスタンまで運ばれます。そこからトラックで、アフガニスタンに着き、ランドセルは1人1人に手渡されます。

私のランドセルが1人の女の子に手渡されて、その子がランドセルを背負って学校に通うと思うと、自然と温かい気持ちになりました。自分にできることをしたいと思い、送ることを決めたいけれど、私の思い出のつまったランドセルをきっと大切にしてくれる。ありがとうという気持ちを込めて、「私が小学校で過ごした時間は笑顔あふれる毎日でした。私のランドセルを背負ってくれるあなたも、たくさんの楽しい思い出を作ってください。」と、手紙をランドセルのポケットに入れて送りました。

今、私の妹と弟は、「自分たちも絶対ランドセルを送るんだ」と、少しでもきれいなランドセルを送れるよう大切に使うと張り切っています。私がアフガニスタンの事を学んで感じたことは、戦争や厳しい環境の中でも、とても心が豊かだということです。きれいな風景や食べ物、動物、すべてに感謝し、笑顔がとても輝いています。

みなさんのランドセルは、今、どこでどのようになっていますか。一緒に温かい気持ちになってみませんか。私も、今の生活を当たり前と思わず、私に関わるたくさんの人や物に感謝し、笑顔で学校生活を送りたいです。

そして、アフガニスタンの人々の平和を心から願い、私のランドセルを背負ってくれるあなたへ、  
「どうか、笑顔あふれる学校生活になりますように。」

## 先生の指と受け容れる勇気

益田市立横田中学校  
2年 安立 葉



白と黒の鍵盤の上で楽しく踊る先生の指。幼い頃から私は、先生のピアノの音が大好きで、先生の指から奏でられる音楽は、まるで私に魔法をかけているみたいだと思っていました。ある日先生は、その魔法をかける手を大きく広げ、私に言いました。

「葉ちゃん見て、私の小指、すごく短いんだよ。」

先生の小指を見て、私はドキッとしました。「先生、かわいそう」という気持ちで、心をすっと横切りました。

あの時から10年。私は先生に対してあんな風に思ってしまったことについて、そして、これからの「私」について考えなければいけないと思いました。

私は背が低いです。牛乳を毎日飲んでも、しっかり睡眠をとっても、なかなか伸びてくれません。学校の身体測定では「どうか1ミリでも伸びていますように」と心臓をバクバクさせながら、毎回祈る気持ちで測定器にのります。「今はこんなに小さいけど、きっといつかは当たり前前に皆と同じようになる」そう信じて過ごしてきました。しかし、病院で検査を受けると、「この先あまり大きくはなれないかもしれない」ということが分かりました。医学ってすごい、こんなことも分かるんだという気持ちの後、胸が苦しくなりました。お医者さんの言葉がずっと頭の中で響いて、「このまま、大人になれなかったらどうしよう」という気持ちも出てきて、自分のことがみじめに思えてきました。

すると母が言いました。

「どんな姿だっていい、命があることが幸せだよ。」

私は「無神経だ」と思いました。今まで、こんなに悩んできた私の気持ちを軽くあしらわれた気がして、私はいらだちました。

「心が死んでいたら、本当の幸せとは言えないよ。」

思わず、母にそう返していました。この言葉が、母を傷つけたのが分かりました。でも自分の中の苦しみにどう向き合っていたか分からなかったのです。

その夜、私は先生のあの小さな小指を思い出

しました。先生の小指は精一杯伸び、軽やかに鍵盤を飛び越えていきます。「大丈夫だよ」という気遣いや心配ではなく、「この小さな指でもこんなことができるんだよ」と伝えてくれているようでした。

先生は決して辛くないんだと気付きました。あの時、「かわいそう」と思った私に、「違うよ」と心の中で語りかけました。

自分の気にしている部分や、他の人と比べてしまうところはきっと誰にでもあるし、その全てを好きになることはできないかもしれません。しかし、自分の存在そのものを認めて、新たな自分の生き方を見つけることはできます。

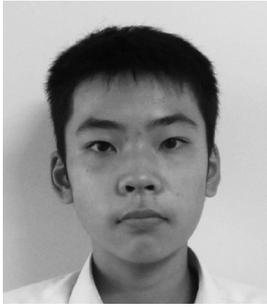
たとえば私は皆の目線からは気づけない小さな出来事にたくさん出会っています。去年の文化祭、ある友だちがステージ上で人に埋もれていた私の手を引いて、隣に立たせてくれたことがありました。その子の手の温かさは今も鮮明に思い出すことができます。もし、私の背が高かったら、その子の優しさには気づけなかったかもしれません。つまり私だけの特権なのです。私の中の、私が認めたくない部分を受け容れることは、自分自身を前へ進めてくれる「1歩」になると、気づきました。

先生がいつもその魔法の手で私を幸せにしてくれたように、私たちも、「人生の鍵盤」のうえで、楽しく踊ることができます。私の身長のように、みなさんが引け目に感じているところは、自分にとっての「欠点」なのでしょう。それを決められるのはきっと自分だけです。「受け容れる勇気」を持てば、それはあなたの魅力になっていきます。

私は今も背が高くなりたいです。自分を見て「どうしてこんな風に生まれてしまったんだろう」と思う時もあります。しかし、そんな自分を受け容れ、この自分と一緒に少しずつ、少しずつ生きていこうと決めました。

そしていつか私に子供ができた時、心から「幸せだよ」

と言える大人でありたいです。



## 島根県警察本部長賞

### 人の強さ

奥出雲町立横田中学校  
3年 廣原 由稀

2016年4月14日21時26分、熊本地震が発生しました。熊本のシンボルである熊本城も大きな被害を受け、物的被害は全壊8300棟、住家被害計が、16万棟にも、のぼりました。僕の住む地域では災害が少ないので、怖いと思いつつも、どこか他人事のように思えました。

震災から3か月後、僕は父に連れられて姉と熊本へボランティアに行きました。まだ小学4年生と小さかったので、旅行気分のところもありました。現地では、比較的被害の少ない場所で、庭や花壇の手入れや地域の人の手伝いをしました。町並みは普通のように見えました。真夏の炎天下での仕事はつらく辞めたくもなりましたが、父の注意と励ましで仕事を続けました。その日は施設を借りて車中泊をしていると、管理人さんが話しかけてこられました。管理人さんは、真剣な顔で話を始めました。「私は地震がきたときもっと揺れの強いところにいるね、船の上にいるんじゃないかと思うくらい大きく揺れて本当に怖かったよ。」

そのとき、少し実感が湧きました。この人は今何を考えているのだろう。家族はどうなったのだろう。といろいろなことが頭の中に浮かびました。そして、なぜ、僕たちに怖くてつらい体験を話してくれたのだろう。

その次の年も熊本へ行きました。その時は前より少し被害の大きいところへ行きました。ボランティアセンターの建物は、看板が歪み、今にも落ちてきそうです。今回も前回と同じような作業でしたが、大きな被害のでたところを見に行きました。そこに広がっていた光景は衝撃的なものでした。家がつぶれ、山は崩れ、木は倒れていました。震災から1年以上たっていましたが、町はぼろぼろでした。地震の恐ろしさを肌で感じ、目の前の光景に引き込まれました。それなのに、被災者の方は、「どこから来たの?」「よく来たね」と僕たちに話しかけてください

ました。そして、帰る前には「ありがとう」と言ってくださいます。その言葉を聞いた時に僕は人の役に立っていると実感し、心から来てよかったと思えました。

そして、僕は中部地方の水害、広島の水害と現地へ行きました。もともとあったきれいな街並みはどこも失われていました。しかし、どこへ行っても地域の方は笑顔で接してくださいました。その笑顔は僕を支えてくれました。しかし、あの管理人さんが伝えたかったのは、笑顔でいても被災者はつらい思いをしているということだと思います。辛くないはずがありません。涙を流しながらも笑顔を浮かべようとする。災害にも負けず、あきらめずに少しずつでも立ち上がろうとする姿に、僕は「人の強さ」を感じました。僕がやったボランティアは決して特別なことでもなく、すぐに結果が出るわけではない小さなことだけど、相手の笑顔を見た僕は役に立っていると感じました。それが僕の「強さ」になりました。

人は弱い生き物です。1人では絶対に生きてはいけません。このような災害があった時に1人ではおそらく立ち上がれません。でも、何かあった時に、周りの人が手を差し伸べることで立ち直ることができる、いやさらに強くなれる。と僕は思います。僕も、部活動や生徒会活動で悩むこともたくさんありましたが、チームメイトや家族、誰かがそばにいてくれたから、1人ではできないことも向かっていくことができました。だから、支えがあることによって人はどこまでも強くなれるのです。

復興という同じ思いを持った被災者とボランティア。同じ思いを持って協力し合うことが今、必要ではないでしょうか。どんなときでも手を差し伸べて支えられるような人に、僕はなりたい。



## 青少年育成島根県民会議会長賞

### 私とあなたで

海士町立海士中学校  
1年 波多美莉菜

「痛い。やめてよ。」

私は心の中で何度も叫びました。しかし、声には出しません。痛がればもっとやられるからです。

大阪にいた小学生のころ、私はいじめられていました。同級生4人からお腹を殴られたり、靴を隠されたりしました。

「なんで殴るん、なんでうちなん？」

聞いても答えてはくれません。きっと誰でもよかったのでしょう。周りで見ていた人も止めてはくれませんでした。いじめは私が転校するまでの3年間続きました。

転校先でもきつくあたられました。またいじめられるんか…。トイレに隠れて泣いていた私に、同じクラスの2人の子が声をかけてくれました。

「大丈夫。うちらが助けてあげるから。安心しいや。」

私のそばにいて自分で嫌な目にあうかもしれないのに。私のことを思って、声をかけてくれた友達。学校が初めて楽しい場所になりました。

海士に転校して2年が経ち、中学生になったある日、突然メールが届きました。私に声をかけてくれたあの友達からでした。

「美莉菜、助けて。」

友達がSNSに投稿した動画に対して「ゴミ」「ブス」「キモイ」「生きている価値あるの?」と、600もの暴言が書き込まれていたのです。手作りの貯金箱が映っているだけの動画に、なぜそんな言葉を書き込むのか。無視した方がいい。いや、そうすればもっと書き込まれるのかも…。答えの出ない話し合いを続けているとき、友達がぼつりとつぶやきました。

「うち、おらんくなったらいいんかな。」

誹謗中傷により、自ら死を選んだ有名人のニュースが頭をよぎりました。

「あかん。絶対にあかん。うちが助けてあげるから。」

明るくて強気な友達がこんなことを言うなんて…。たくさんの人に否定され続けたら誰でもふとこんな気持ちになるのかもしれない。どうすればいいのか…。思い悩む私に小学校の頃の記憶がよみがえってきました。

いじめに耐えられなくなり、打ち明けたとき、母は学校に来て、1日中私を見守ってくれました。心強かった。転校先で不安に押しつぶされそうな私に友達が声をかけてくれました。嬉しかった。行動すれば何かが変わる。今の私にできること。それは、友達に寄り添うこと。そして、もう1つ。

暴言が並ぶコメント欄に私は問いかけました。「なんでこんなひどいことが言えるの?自分が言われたらどう思うん?」

不特定多数の人に問いかけた私の行為は危険なものです。次は私が暴言の標的になるかもしれません。それでもいい。私は友達を助けたい。

じっと画面を見つめる私に、こんな答えが返ってきました。

「確かに自分もやられたらイヤだわ。友達に謝るよ。気づかせてくれて、ありがとう。」

そんなコメントは徐々に増えていき、暴言を書き込んでいた半数の人が友だちに謝ってくれました。

いじめはなくなるといふ人がいます。なんであきらめるん? やってみんとわからんやん。本気でやってみようよ。

自分のストレスを他人にぶつけない。

助けを求める。声をかける。

そっと寄り添う。

どんな小さなことでもいい。自分にできることをやり続ければ、いじめはなくなる。人と人が思い合える、当たり前の世界にしよう。私とあなたで。



## 審査委員特別賞

# 「私」を生きる

浜田市立旭中学校  
3年 堀 さくら

「普通ってなんだろう」  
担任の先生に道徳の授業で問われたこの言葉に、私は答えることができませんでした。

私は、小学校高学年の頃から自分の性について疑問をもっていました。もし誰かに「あなたの性別は何ですか？」と問われたら、「体は女ですが、心は分かりません。」と答えていたと思います。それを自覚したのは、成長期に入り、体が大きく変化する中で男と女という性の線引きが、はっきりと表れてきたからだと思います。性について意識していく中で、私には疑問が生まれました。「私って男の子と女の子どっちなんだろう。」

世の中で、男の子向けとされる仮面ライダーや戦隊もの、女の子向けとされるプリキュア、私はどちらか片方ではなく両方見てきました。また、男の子たちと野球をすることも、女の子たちとおままごとをすることも好きでした。世間で言われる「男の子らしい、女の子らしい」にどちらも当てはまっているような私は、自分の性が分からず、戸惑いや不安を感じていたのです。

特に私が悩んだのは、周りとの感覚の違いでした。小学校5年生の時、私がクラスの男の子達とよく話しているのを見ていた女の子の友達に、私にこう言いました。「さくらちゃんって何で男の子とばっか喋ってるの？誰かのことが好きなの？」それは純粋な疑問からくる言葉でした。私は、同性と話す感覚で男の子と話していたけれど、少なくともその子から見た私は、異性とばかり話しているように見えていたのです。周りは、男と女で分かれているのが普通で、そうじゃない私は何なのか。段々と、「自分は普通じゃない」と思うようになりました。

私は、悩みを抱えたまま中学校に入学しました。悩む中で、私が性について考えるきっかけになったのが中学1年生の時にあった人権集会です。講師の方が自身の経験から性同一性障害

について話され、その後、学年を超えたグループで話し合いをしました。性について意見交換をするのは初めてで、周囲にも理解が広まるという期待と、否定されたらどうしようという不安な気持ちがありました。しかし、実際にグループで話し合いをすると、否定的な意見はなく肯定的な意見ばかりでした。ある先輩は、「たとえ性の認識が違う人がいたとしても、否定するのは良くないと思う。」と言い、ある同級生は、「性に限らず、考えが自分と違う人でも認める雰囲気づくりをしたい。」と言いました。自分に直接言われたわけでもないこの言葉たちは、私はそのままいいと思わせてくれました。それから私は、自分にもっと向き合おう、自分を偽って過ごすのはやめようと決意しました。

今私は、生徒会に入り、活動を頑張っています。特に力を入れたのは「私達の約束」というきまりの見直しです。髪の毛の長さの指定に男女差があったのをなくすなど性に関係ないものにしました。たった1人の意見でも、自信をもって行動すれば皆に認めてもらえる。それが分かった出来事でした。これからも学校生活がより良いものになるよう、私にしかない視点で取り組んでいきたいです。

「普通」とは何か？私が今思う普通は、物事を見る基準ということです。世間の基準に流されることなく私自身の基準を見つけていきたいです。これから必要になっていくのは、違いを見つける力ではなく、違いを認める気持ちではないでしょうか。「普通」というものに惑わされず、自分の意見をもって、だれにとっても生きやすい世の中になってほしいです。

もし誰かに「あなたの性別は何ですか？」と問われたら、これから私はこう答えます。「私は私です。」



## 審査委員特別賞

# 未来のために

雲南市立海潮中学校  
3年 新田 美優

「地球を救いたい。」愛ちゃんはそう言いました。

私は小学校1年生の頃「あいと地球と競売人」というミュージカルに参加しました。それは、環境問題の深刻さを訴えた「地球の秘密」という坪田愛華さんの作品をもとにしたものでした。その頃はまだ幼く、よくわかっていませんでしたが、今、環境問題の深刻さを理解できるようになり、改めて愛華さんのすばらしさを実感しています。

しかし、現実はどうでしょう。世界は愛華さんの思いとは裏腹に、地球温暖化は進む一方です。近年、地震や豪雨などの自然災害も増え、私たちを大きく苦しめています。今年は雲南市でも、大雨による災害がたくさん起きました。いったいこの状況、この環境を作り出しているのは何なのでしょう。

近年の気候変動の背景には、地球温暖化が関わっているとされています。自家用車の排気ガスや、ごみの焼却など私たち人間の活動によって地球温暖化は進んでいくのです。私はSDGsについて、英語の授業で食や環境をテーマに発信したことをきっかけに、自分にできることは何だろうか、考えるようになりました。

私の住む小戸内自治会には「ホタルと神楽の夕べ」というお祭りが 있습니다。飛び交うホタルと神楽を見るために、県内外から観光客が訪れます。私もホタル保護のための清掃活動に参加したり、小学生の時にはエコローソクを作ったり明かりを灯したりしました。今年もいつもの

ように、夜ホタルを見に、近くの橋へ出かけると、

「昔はもっととんどったのにねえ。」

「これも地球温暖化の影響かな。」祖母と姉が話していました。「確かに、年々気温が高くなってきているから、生き物にとっては、悪条件なのかな。こんなに自然豊かな小戸内でも、環境問題は起こってるんだ。」と実感しました。

私は神楽部で、スサノオノミコトを演じています。

「出雲の国 簸の川上にいたり 怪しき仇をうち平らげ 国を安らかに治めれば やと 思うなり。」

これは「簸の川大蛇退治」でのセリフです。オロチを退治して、安心して暮らせる国をつくりたいという、スサノオの決意を表しています。たびたび氾濫する斐伊川をオロチに例えたという話を聞いた時、私の演じる神楽を通じて、環境保護の大切さを伝えていくことができるのではないかと思います。

私は小戸内の、美しい光を放つたくさんのホタルが生息する、川の清らかさを広く伝えていきます。そして、環境を守ろうとする、自治会を手助けしていきたいです。また、安らかな世界を願ったスサノオの思いと、みんなが安心して生活できる、安全で平和な社会をつくりたいという私の願いを重ね、心を込めて神楽を舞います。私ができることはささやかですが、これからも努力し続けていきます。笑顔あふれる未来のために。



## 優 秀 賞

# 言葉一つ一つを考えて

松徳学院中学校  
3年 上川 心海

「キモイ」「死ね」「早く消えろ」

これは私が、インターネット上でよく目にする言葉です。言葉は使い方によって、相手をじわじわと苦しめ、最後には「死」へと追い詰めてしまう危険性のある恐ろしいものです。実際に、心無い言葉が原因で自らの命を絶ててしまったというニュースが後を絶ちません。指で人が殺せる時代がきたのだなととても悲しい気持ちになります。

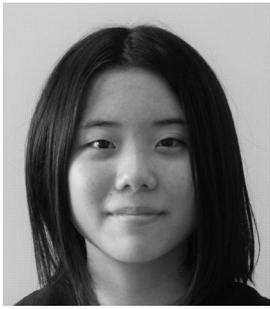
新型コロナウイルスが広まり、我々の生活が大きく変わった昨年の8月のことです。私の住む島根県松江市のとある学校で、新型コロナウイルスの大規模クラスターが発生しました。この学校には、私の父が教員として、姉が生徒として通っています。私は、学校の行った会見をテレビの前で見えていましたが、その間にも、インターネット上では、多くの誹謗中傷が飛び交っていました。会見が終わったあとも、インターネット上での誹謗中傷はとどまらず、「日本から出て行け」「学校をつぶせ」など、悪質な書き込みがどんどん増えていきました。さらに、インターネットの掲示板や新聞などで、生徒の顔が無断でさらされるということも起きました。そしてそれに対し、「こいつがコロナをばらまいている」「この写真が誰なのか特定してやろう」といった書き込みもありました。これを見た時、わたしはぞっとしました。得体の知れないウイルスよりも、軽々しく写真を掲載し、誹謗中傷する人々の方がよっぽど恐ろしいと感じたからです。さらされ、悪質な書き込みをされた生徒はどれほど追い込まれた気持ちになったでしょう。想像すればするほど、私もとても苦しい気持ちになりました。

クラスターが発生してから、父は学校に泊まり込む日々が続きました。1度火が付いた誹謗中傷はどんどん燃え広がり、毎日のようにいやがらせの電話が鳴り響きました。たまに帰ってくる父は、心身ともに疲れた様子でした。姉は元々、とても明るく元気な性格だったのですが、学校に対する誹謗中傷を目にしてから、「人の目が怖い」「学校に行きたくない」とふさぎ込むようになりました。家族の苦しむ姿は、私にとってとても辛いものでした。私に出来るこ

とはないだろうか。考えた末、私は父と姉に対して、なるべく声をかけることにしました。今回のことで、言葉の持つ重みが分かったからこそ、言葉を使って励まそうと考えたのです。忙しい父と話せる時間は短いものでしたが、「おかえり、おつかれさま」「毎日大変だね、今日もがんばってね」など、いたわりの言葉をかけるようにしました。言葉をかけると、疲れた父の表情が、少し和らぐように見えました。姉に対しては、姉の好きなアニメについて話しかけ、一緒に盛り上がりたりしました。なるべく明るい言葉や前向きな言葉を使って話すようにしたら、いつもより会話が弾み、姉もとても楽しそうでした。言葉の選び方を少し変えるだけで、笑顔の時間が増やせるのだと身をもって感じました。

まもなく、クラスターが発生してから1年が経とうとしています。クラスターが起こる前と変わらない日々が戻りつつあります。しかし姉は、今でも人の目が気になり、学校に行きにくい日があります。姉だけでなく、多くの人々が、今でも誹謗中傷の影におびえ、心に傷を抱えている状態です。始まりは些細な悪口だったとしても、広がるうちに強大な誹謗中傷に姿を変えてしまいます。根拠のない言葉でも、拡散され続けるといつしかそれが事実かのように人々の間に浸透してしまいます。言葉の持つ力の大きさは計り知れません。

現在の社会は、インターネットなどの普及により、以前にも増して、気軽に発言することができるようになりました。気軽に発言できるからこそ、誤解が生まれやすくなり、誰かが傷付いたりしてしまう危険性も大きくなります。あなたの周りに、心無い言葉で苦しむ人はいませんか。もしいたら、見て見ぬふりをせず、声をかけてあげてください。言葉は凶器にもなりますが、傷を癒す薬にもなるはずですよ。そしてなにより大切なのは、発言する時、1度止まって考えてみることです。自分の言葉に、嘘や誤解を招くような表現が含まれていないか。自分の言葉によって傷つく人がいないか。1人1人の心がけで、辛い思いをする人が少しでも減ることを願っています。



## 優 秀 賞 私の願い

大田市立第三中学校  
3年 竹島 世麗奈

『我会一直祈祷下去的』

『나는 언제까지나 빌고 있습니다』

今、話したのは、「私はいつまでも願っています。」という意味の中国語と韓国語です。

私は、日本人と中国人のハーフです。

そのため、「日中関係」について、幼いときから意識してきました。ニュースに中国が出ると気になるし、その中で中国が悪く言われると嫌な気持ちになります。インターネットを使い始めてからは、ますます嫌な言葉に触れる機会が増えました。なにげない日常風景の動画でさえも、決めつけや偏見の書き込みを目にします。

さらに、一昨年からは、新型コロナウイルスが中国武漢市から広まり、世界的な混乱を引き起こしています。このことで、中国を責める言葉も目にします。

私の通う中学校でも、中国やコロナウイルスが話題になったとき、「自分には、中国人の血が半分流れているから、自分のことを言われているみたい。」と、息苦しくなり、心臓がきゅうっと縮まるような感覚がします。また、歴史に関することでは、現在の中国ではないと理解していても、そう感じることもあります。

私に限らず、外国にルーツを持つ人の多くが、同じような体験をしているのではないのでしょうか。

このような問題は、日本と韓国の間にも存在します。

私は、韓国の音楽やアイドルが大好きで、韓国についてよく調べます。その中で目にする、韓国人に対する中傷。人が亡くなった痛ましい事故に対しても、不謹慎なコメントがあって、「ありえない」と腹が立ちます。

嫌いだから、とって、それを公の場で表現してもよいのでしょうか。「好き・嫌い」自分の立場を明確にするのは大事です。でも、それが相手を傷つけていい理由にはならないはずです。

それに、ある国について考える際に、一部の情報だけで判断するのは間違いです。

例えば、メディアが取り上げる中国の情報

は、注目を集めやすい過激な一面が多いです。しかし、私の知る、中国に住んでいる人達は、みんな、とてもいい人達です。

小学生の頃、夏休みは、毎年中国の、母の実家に帰省していました。むこうにいたり、買い物やプールに行ったり、映画を観たり、私は中国語が理解できませんでしたが、楽しかったです。町にいる知らない人達も、私に明るく話しかけてくれました。

日本から、テレビ電話で、中国にいる親戚や友達と話すこともあります。言葉は通じませんが、「せれな、おはよう。」と、身振り手振りでコミュニケーションをとっています。

また、皆さんに聞いてほしい言葉があります。「괜찮다고 하지 마 괜찮지 않으니까」

これは、私の好きな韓国の曲の歌詞です。意味は、「大丈夫って言わないで、大丈夫じゃないんだから。」若者の不安や寂しさに寄り添う歌詞で、日本人の私達にも共感できます。こうした曲に、世界中のファンが感動する姿を見ると、心は同じだな、と感じます。

特定の国に対して、「嫌い」という感情や、固定概念に縛られず、実際に現地を訪れたり、その国について調べたりすれば、いいところが見えてくるはずですよ。

私は、これからの人生で、中国や韓国に対して、差別意識を持っている人に出会ったとき、「こんないいところもあるよ」と説得して、その人の見方を少しでも変えたいと思っています。特に、これからの社会を担う、私と同じ世代の人に伝えたい。そのために、まずは私自身が、見た目や国などで差別をしない人になりたいと思います。

近年、「多様性」「国際化」といった言葉が盛んに使われています。国や言語が違って、音楽やアニメ、スポーツなど、同じものを楽しみ、感動できる、同じ人間。私は、日本も中国も韓国も、その他の国も、傷つけ、罵り合うのではなく、協力し、仲良くなってほしい。

『我会一直祈祷下去的』

『나는 언제까지나 빌고 있습니다』

私は、いつまでも願っています。



## 優 秀 賞

# 友達は数じゃない

江津市立江津中学校  
2年 佐々木大佑

みなさんは、友達はいますか。大半の人はいると思います。では、その中に親友と呼べるような人はいますか。考えてみてください。恐らくこの3秒以内に思いつくことのできなかった人は、一度改めて考える必要があるかもしれません。親友という存在は、私たちにとても良い影響を与えてくれます。そんな親友が1人でもいるという生活は、ただ友達の数が多いという生活より質の高いものになることでしょ。言ってしまうえば、友達は数よりも質です。僕がなぜこの結論に至ったのかを説明したいと思います。

ある日、僕は自分の部屋でマンガを読んでいた。そのときに、気になるシーンがありました。

ラインにて

A子「うわあ、ガチでD子だるいわあ。」

B子「なんかあったん。」

A子「私がさ、掃除の時間にちょっと休憩してただけなのに、D子がさあ、さぼるな、とか、しっかりやれ、とか言ってきて。いや何様だよ！って感じでめっちゃうざかった。」

C男「それはだるいわ」

A子「あいつちょっと頭がいいからって優等生ぶってさあ、うざいわあ〜。」

ここで出てきたA子さん、かわいそうなことに、誰も注意してくれるような人がいません。それどころか、自分の悪口に共感されて、自分の言っていることは正しいんだ、と勘違いをされています。このように、ただ自分の考えに便乗するだけの友達がいても、自分のためにはなりません。しかし、間違っていることを、しっかりと注意してくれるような友達がいる人は、自分の発言や行動についての善し悪しをよく考えることができることでしょ。

では逆に、みなさんは、友達にいい影響を与えられる、質の良い存在だといえるでしょうか。友達が何か危ないことをしているときに、注意することができるでしょうか。僕はできませんでした。危ないと分かっているけど、ただ楽しそうだな、という理由で後先考えずに遊んでしま、結果的には、学校の備品を壊してしま、

破損届を提出することになってしまいました。その友達もけがをするわ、先生にも迷惑をかけるわで、大変でした。

このように、ただ自分が注意をしなかったがために、友達が誰かを傷つけてしまったり、誰かに迷惑をかけてしまったりしたときに、あなたはその人にとって、良い友達であったと胸を張って言うことができるでしょうか。

親しい間柄だからこそ、注意しにくいということはあるかもしれません。しかし、あなたのその客観的な一言が相手のためになることもあります。先ほどのラインの話にしても、A子さんに対してB子さんやC男さんが、「A子からしたらちょっと休憩してただけかもしれないけど、D子からしたらさぼってるように見えたんじゃない。」などのように第三者の冷静な意見を伝えることによって、Aさんも少しは自分の行動について振り返ることができるかもしれません。

友達に意見を伝えたり注意をしたりする一方で、私たちは、人の注意を素直に聞き入れる心を持つことも大切だと考えます。なぜなら、人の注意を受け止めることのできない人は他人から、この人は自分の意見を聞き入れてくれない人、と判断され、言っても理解してもらえない、と呆れられてしまうと思うからです。しかし、人の注意を受け止めることのできる人は、この人は自分の意見をしっかりと聞いてくれるな、という風に判断され、それが信頼関係にもつながっていくことでしょ。

僕は、互いを注意し合えるような質の良い友人関係が理想だと思っています。これは友達の数が多いだけではできないことだと思っています。このような関係を持つことで、私たちは日々高め合うことができるのです。

これらのことから僕は、友達は数ではなく質だと思うようになりました。このような友人関係を築くことができる人が増えれば、友人同士で悪いところを直し合えるようになることでしょ。これは、いじめなどの問題を減らす第一歩になると、僕は考えます。

みなさんは、どのような友人関係を築いていきたいですか。



優 秀 賞

そして、これから…

出雲市立平田中学校  
3年 周藤 成輝

皆さんにとって、お寺ってどんな存在ですか。「そういえば、昔、広い境内で遊んだなあ。」「お盆には必ずお墓参りに行くよ。」という人はけっこう多いのではないですか。

僕にとって、「お寺」は、もっともっと、身近な場所です。僕は、お寺の子として生まれました。

僕は、幼い頃から、お寺の行事の手伝いをさせられました。夏休みになれば、檀家の方々の家で、黒い衣を着て父の隣に座り、お経を唱えなければなりません。友だちが夏休みを楽しんでいるのに、僕はしかめつらしい顔をして、お経を唱えている。みんなと同じように過ごしたい。楽しいはずの夏休みは、僕にとっては憂鬱でしかありませんでした。

お寺の仕事を嫌がる僕に、家族はこう言いました。

「お兄ちゃんは法事や葬式にでるのに、成輝はなんで出ないの。」

と。兄のことは関係ない。僕は兄とは違う。家族の言葉に反発を覚えました。僕は、あまり人前に入るのが得意な方ではありません。見知らぬ檀家さんの家に行き、その人たちの前でお経を唱えるなんて、嫌でたまりませんでした。「なんで僕はお寺の子として生まれたんだろう。」

その気持ちは中学生になっても、薄まるどころか、強くなっていくばかりでした。

そんなある日、僕にとって、大きな出来事がありました。曾祖母の突然の死です。曾祖母は、僕が小さい頃からとてもかわいがってくれ、僕と兄の成長を、とても楽しみにしてくれていました。数年前からは施設に入り、そこで元気に過ごしていました。最近、コロナウィルスの影響で、思うように面会できませんでしたが、時間があれば家族で面会に行きました。

僕が最後に曾祖母に会った日は、よく晴れた日でした。僕は中学校生活のことを、曾祖母は施設での出来事を、笑い声をあげたり、秘密を打ち明けるようにもったいぶったりしながら、たくさんのことを語り合いました。そして、「また来るね!」と約束して、別れたのです。

しかし、その約束は、叶いませんでした。あんなに元気そうだったのに…。曾祖母の死を知ったとき、頭が真っ白になりました。もっとたくさんの時間を一緒に過ごしたかった。僕や兄の成長を楽しみに、いつまでも温かく見守っていてほしかった。

葬式を行う前に、僕が曾祖母のためにお経を唱える機会がたくさんありました。通夜の時、火葬する時。曾祖母がいよいよ火葬される、その瞬間が、僕にとって一番つらく、身を切られるような瞬間でした。

僕は、自分自身がしっかりとお経を唱えることで、今までの感謝の思いや、最後の見送りの気持ちを整理できたように思います。特に、葬式の時には僕も衣と袈裟を身につけ、気持ちをさらに引き締めて、他のお寺さんと一緒に曾祖母のために拝みました。

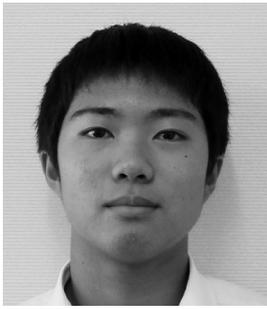
お寺に対する思いが変わったのは、このときでした。僕は、葬式にも法事にも行きたくなかった。でも、仏さんのために僕たちを待っている檀家さんがいる。僕がやらなければならないのです。葬式という儀式を行うこと。お経を唱え、心を無にして仏さんのために祈ること。人は、身近な人の「死」という大きな喪失感を乗り越えるために、このような静謐な時間を必要としているのです。

病気で、事故で…。人が死を迎える要因は様々ですが、残された人々は、皆一様に喪失感を覚え、そこから必死で立ち上がろうとしています。

そんな、亡くなった方を思う家族を支え、心のよりどころになれるのが、お寺という存在なのだ気づきました。僕は、この時やっと、お寺の子として生まれたことを誇りに思えたのです。

僕の人生に間違いはなかった。僕の夏休みは、他の友だちとは今年も違いました。でも、それは、僕にとって必要な経験なのです。

今年の夏は、何とも言いようのない清々しい気持ちで棚経を終えることができました。これからは、お寺としての役割をしっかりと果たし、人の心に寄り添える。そんな人間になりたいと思います。



## 優 秀 賞

# 思いやりのある社会へ

浜田市立第四中学校  
3年 中島 大毅

### 「コロナ差別」

新型コロナウイルス感染症の流行とともにこの言葉も世間に広がりました。コロナウイルスでのいじめが原因でつらい思いをしている人、最悪の場合、自死を選んでしまう人がいるということがニュースになっています。

僕もこんな話を耳にしました。

家族の大人がコロナウイルスに感染してしまいました。その家の子どもは感染していないのに、周りから嫌な言葉を言われたり、避けられたりという差別を受けたそうです。家族全員に向けた陰口や嫌がらせ、その家族がいないところでの悪意のこもった噂話などが続き、ついに引っ越しせざるを得ない状況にまで追い込まれてしまいました。

これを聞いて、僕は驚きました。それまで、感染症による差別はニュースの中のことで、まさか自分の身近なところで起こるとは思ってもみなかったからです。

1学期の終わり、学校でコロナ差別に関する人権集会が行われました。「あいつコロナになったらいい」という発言が差別につながる事例が出てきたとき、あれ？と思いました。もし、身近な人がコロナにかかったら、僕も「あの人がコロナになったらいいよ」と口にするのではないかと思ったからです。悪意を込めてではなく、単に情報の共有として何の気なしに言うと思います。同じように知り合いの誰かが感染したという話を持ちかけられたら、何の違和感もなくその話を聞くとします。僕だけではなく、誰でもそうなのではないでしょうか。無意識のうちに行っている言動が差別につながりかねないと思うと、差別は自分の身近にあるものだとすることを改めて思い知りました。

また、差別が起こる背景についてグループで意見を出し合い、考えました。正しい情報を知らないと単なる噂を鵜呑みにしてしまう。不確かな情報に翻弄されて不安に陥ってしまう。その不安になった心を守ろうとして周りの人に攻撃的に当たってしまう。これらが連鎖して差別

が起きるということに気がつきました。不安になった心を守るために差別をしてしまうというのは今まで考えたことがなかったので、とても驚きました。

「不安が差別につながる」。たしかに不安を抱えると、早くそれを解消したいという思いが強くなり、つい躍起になることがあります。それに、不安に陥った心を守るのは大切なことだと思います。しかし、そのために差別という手段を使うのは間違っているのではないのでしょうか。差別は人を傷つける行為です。差別された側にとっては、心に一生の傷を負う可能性だってあります。何があっても許されるべきことではありません。

これらのことを受けて、コロナ差別をなくしていくべきだと強く思いました。重要になるのは、不安を和らげるような思いやりのある優しい声をかけてあげることだと思います。最近ではSNS上で誹謗中傷したり差別を助長するような情報を発信したりする人もいます。思ったことをすぐに口にするのではなく、どうすれば相手を安心させられるのか考えたり、相手の気持ちを汲んで接したりすることが大事だと思います。

実際、鳥根県海士町では「もしあなたが感染したらどんな声かけをもらうとうれしいだろうか？」というメッセージが書かれたチラシが配られたそうです。このように相手の気持ちに思いをはせ、相手に寄り添おうとする気持ちが大事だと思います。もし僕がコロナに感染してしまったら、「大丈夫?」「困ったことがあったら頼ってね」と言ってもらえると、ほっとできて嬉しくなります。だから、自分もこのようなあたたかい言葉をかけられるようにしたいと思います。

「もしあなたが感染したらどんな声かけをもらうとうれしいだろうか?」僕はこの視点を大事にしていきたいと思います。一人一人が互いのことを思いやり、あたたかい社会を作っていきましょう。



## 優 秀 賞 ランドセル

邑南町立羽須美中学校  
3年 中村 美結

「ランドセル、まだ残ってる？」  
ある日、突然祖母にそう聞かれました。  
「うん、まだあるよ」  
そう答えると、  
「ならそれ、海外の子に寄付したらいいんじゃない？」  
と言うのです。急な提案に驚いた私は、祖母になぜそんなことを思いついたのか尋ねました。すると、テレビでランドセルを寄付する場面を見たこと、祖母自身、幼い頃に物の少ない生活を送って辛かったことなどを話してくれました。  
その話を聞いて、私は悩みました。寄付してみたいという気持ちと、寄付することは相手を下に見ていることになるのではという気持ちがあったからです。他にも、せっかく買ってもらった物をあげるのも悪いかなとか、使い古したランドセルを送って感謝されようなんて失礼ではないのかなどと考えました。

しかし、ホコリをかぶったランドセルを見て、もしこのランドセルを誰かが使って喜んでくれたら嬉しいなと思うようになりました。

そして、インターネットで「ランドセル 寄付」で検索をしました。出てきたサイトにアクセスすると、最初に目に飛び込んできたのが、ランドセルを背負い満面の笑みを浮かべた少女でした。説明を読んでいくと、世界には物を入れるカバンを買えない家庭があること、その多くはビニール袋を使っていること、耐久性に優れたランドセルは重宝されることなどが分かりました。送られたランドセルは、少女たちが学校に行く助けになるのです。私は彼女たちに笑顔で学校に通ってほしいと思いました。ランドセルを送ることを決意した私は、ランドセルに感謝の気持ちを伝え、海外へ送り出しました。

今はどんな子が私のランドセルを使っている

ののだろうか。その子は笑っているのかな。そんなことを考えると幸せな気持ちになります。

現在、世界では約7億人以上が極度の貧困状態にあります。紛争や災害など様々な原因によって、世界中の人に必ず供給されるべき、安全な水、電気、医療、教育が行き届いていないという現実から目を背けることはできません。私が今すぐ海外に渡って、問題を解決することはできません。私自身行って何をすればいいのかも分かりません。ですが、私は今、それらの問題に対して止まっていたくはありません。苦しんでいる人たちが少しでも笑顔になってほしいと思います。

今の私にできることは、寄付やボランティアに積極的に取り組むこと、情報や資料を集めて知識を蓄えること、解決方法を自分なりに考えてみることで、そして伝えることです。

今日この弁論を聞いたみなさんが、ランドセルの寄付について興味をもってくれたら嬉しいです。実際に寄付しなくとも、今日話をきっかけに世界の貧困について考えたり、テレビや新聞に興味を示したり、そういう小さな行動が繋がって誰かの助けになるのだと思います。

ランドセルの寄付を通じて、自分のしたこと誰かの役に立てたことは、私にとってとても大きな誇りと自信になりました。今回の寄付をきっかけに、まだ、ほんの少しですが、世界で苦しんでいる人たちの具体的な数字や情報を知ることができ、今、自分には何ができるのかを考えさせてくれました。そして、誰かの役に立つために行動したいと一歩踏み出す勇気をもらいました。これから私は、たくさんの知識を得て、自分なりの解決策を持ち、苦しんでいる人たちに自ら歩み寄り、共に笑顔になれる大人をめざします。



## 優 秀 賞

# ポジティブ変換

飯南町立頓原中学校  
2年 岡野 堇

「あなたは自分をどのような人だと思いますか。」

私は以前、こう聞かれて言葉に詰まってしまいました。苦しまぎれに「短気だと思います。」と答えましたが、よく考えると「私ってどんな人?」「本当に短気?」分からなくなってきました。

それまでの私は、いちいち人の言葉に左右されるし、周りからの評価を気にしてばかり。自分のことをちゃんと考える機会なんてなかった。だから自分がどんな人なのか説明できないし、自分はこんな人ですって簡単に言い切ることも怖かった。

「あなたは自分をどのような人だと思いますか。」

この言葉で私は、「もっとちゃんと自分と向き合おう!」心からそう思い、じっくりと自分を見つめるようにしました。すると、なんだか見えてくるものや感じるものが変わってきたのです。

以前は、自分について考えると、「頑固で負けず嫌い」、「人に相談するのが嫌」など自分の嫌いなところが次々と浮かんで来て、少し苦しくなっていました。でも、自分の思いや感情をじっくりと感じることで、自然と違う言葉に置き換わっていったのです。例えば「頑固な負けず嫌い」は、「やりぬく人」。「人に相談することが嫌」は「一生懸命頑張れる人」に。何だか気分も明るくなって、やる気が出てきます。ネガティブな言葉を、ポジティブな言葉に変換して捉え直す。すると、自分と向き合うことも楽しくなっていて、言葉にふさわしい自分に変わっていき、そんな実感がもてたのです。

そしてこのことは、自分だけでなく相手に対しても言えることです。相手と合わないことがあると、つい嫌なところに目をむけて、ネガティブな言葉が出てしまいます。でも、ネガティブな言葉をポジティブな言葉に換える努力をする。それはつまり、自分の考えを押し付けるのではなく、相手のことをしっかりと考えて受けとめること。私はそれを「ポジティブ変換」と呼んでいます。

ところで、今、世界中が新型コロナウイルス

感染症に翻弄されています。私の学校生活も一変してしまいました。入学して3日で臨時休校。楽しみにしていた体験入部もできない。いつまで続くんだろう。せっかく新しい友だちもできたのに…。

学校が再開されても、マスク越しの会話。間をあけたグループ活動。給食だって本当はランチルームで全校一緒に食べるはずなのに、教室で前を向いて黙々と食べる。なんだか急に私の周りに壁ができたようで、息が詰まりそう。ついつい「はあ、またコロナかあ。」と溜息が出てしまいます。

私にとって一番辛いのは、大好きな兄と会えないこと。夏休みの成人式には帰って来るはずだったのに、もう1年以上会っていません。「帰りたいな、会いたいな」「しょうがないよ」そんな会話の繰り返しです。

コロナがもたらしたネガティブの嵐は強力でした。でも、少しずつ変化も生まれてきました。

ばらばらの教室で食べていた給食に、電子黒板が導入され、お互いの顔を見られるようになり、さらに生徒の有志がパーティションを作って設置してくれることで、ランチルーム給食を再開させることができました。

そして休校明けには、1人1台のタブレットが配られました。私たちは今、このタブレットを相棒にして毎日持ち帰り、授業や委員会、部活動などで活用しています。タブレットを使うことによって、分断されかけた絆が再びつながっていったように思います。県外にいる兄ともこのタブレットをつないで、一緒に勉強したり楽器の吹き方を教えてもらったりしています。

コロナでできなくなったことを嘆くだけでなく、使えるものは何でも使って、みんなでできることを工夫してやっていく。コロナ禍のこの1年半が私にとって大きな「ポジティブ変換」でした。

私はこの、ポジティブ変換の力を自分のものにして、もっと自分から周りに働きかけていきたい。そして笑顔の人を増やしたい。そのときにはきっと、「私はこんな人です」と自信をもって言えそうな気がします。



## 優 秀 賞

# ぼくの生きる糧

吉賀町立六日市中学校  
3年 水津 拓朗

僕にできることは何か。僕にしかできないことは何か。あの日からずっと考えていました。

あの日、テレビのCMを見てからです。あ、僕と同じだ！と驚きました。聖火ランナーの唐治谷さんは僕と同じペルテス病を経験していたのです。唐治谷さんは5歳、僕は7歳の時に走ることを禁止されました。そして今は走れるようになっています。年齢も同じです。彼は、同じ病気の人に、走れる時が来るまで頑張ろう、と聖火ランナーで走ることを通して伝えたいというのです。短い映像の中には支えてくれた人への感謝の気持ちもつまっていました。映像や彼のインタビュー記事に自分が病気だった時のことが重なりました。

感謝しているという点では僕も同じです。走れなかった時、たくさんの人からもらった励ましの言葉やその時の顔が今でも浮かびます。家族がずっと心配し、寄り添ってくれたことも知っています。

僕は毎日5時30分に起きて走っています。大会以外の日は毎朝です。とにかく走れることがうれしいのです。僕も支えてくれた人に感謝しながら走っています。

いえ……感謝しているだけでした。インターネットにのっていた「たくさんの人に助けてもらった。それを、これからどうやって返すか。」という唐治谷さんの言葉は僕にとって衝撃でした。この聖火ランナーの彼のように、自分が受けた恩を返すなんて考えたことがなかったからです。

僕も何かしてあげたい、と思い始めました。でも、何ができるのか。そもそも「してあげる」なんて上から目線なのは、という思いが自分の中にあり、ひっかかっていました。

そんなある日のことです。全校でスポーツレクリエーションをする機会がありました。でも、全校生徒の中には、スポーツが苦手な人やあまり楽しみではない人もいるかもしれない、と思いました。スカットボールをする時のことです。これはスティックでボールを打ち、穴に入れ、得点を競うものです。僕の番がまわってきました。「さあ、いくよ。」と打つ前、腰をくいとひねってちょっと面白いフォームで打ってみました。それを見て、みんなが笑ってくれました。さっきまで下を向いていた後輩も笑顔になり、楽しそうになってきました。

家に帰って「こんな打ち方をしたんだよ。」と言うと「すごいねえ。」「ようやくだねえ。」と言ってくれる父と母の顔も笑顔でした。

全校レクリエーションの時のみんなの笑顔、両親の笑顔。自分以外の人の笑顔を見た時、僕の迷いは消えました。自分が人を笑顔にできるなんて考えたこともなかった。うれしかった。「してあげる」という言葉にこだわっていたけどですが、あの日から「僕がみんなを元気にしてあげたい」という気持ちになりました。気配り、声かけ、僕は僕にできることをやります。将来は、僕のサッカーで笑顔になってもらえるように頑張ります。

僕は、小学校2年生の時に支えてくれ励ましてくれた人達への感謝を忘れずに、同じ病気の人、何かに困っている人、下を向いている人が一瞬にして前を向けるように、人の笑顔のために、これからの人生を歩んでいきたいと思います。人の役に立つ生き方をして、いつかは、あの人がいってくれたから笑顔になれたと思われるような人間になります。



優 秀 賞

## 男のヘアドネーション

松江私立第二中学校  
1年 若槻 悠生

皆さんは、「男らしく」、「女らしく」と言われたことはありますか？男だから力持ち、女だから髪が長い。そんな印象をもっている人が多いのではないのでしょうか。しかし、それは本当に正しいことなのでしょうか。

僕は、4年生の頃、ヘアドネーションに関する本を読みました。ヘアドネーションとは、小児がんや、先天性の脱毛症などで髪を失った人に、伸ばした髪を寄付することです。そのとき、僕は考えました。僕は男です。しかし、ヘアドネーションをすることで、苦しんでいる誰かの役に立てるかもしれない。そう思うと、やってみたいという気持ちが強くなりました。

その日から僕は髪を伸ばし始めました。

それから1年6ヶ月、髪は肩まで伸びました。そのころ、ある友達から、「なんで髪を伸ばしているの？」と聞かれました。僕の思いを理解してくれるかどうか不安でしたが、思い切ってヘアドネーションのことや髪を伸ばしている理由を説明すると、「ふーん、そんなことがあるんだ。」と、受け入れてくれて、とてもうれしかったです。僕自身も、話すことで気持ちがすっきりとしました。

しかし、その後、不快感を覚える出来事が起きました。休日、親と一緒に服を買いに行った時のことです。服を選んでみると、店員の方がお勧めの服を出してくださいました。しかし、それは、女性用だったのです。親が男の子だ、と伝えるまでは、僕は女の子と決めつけられ、戸惑うと同時に非常に不快感を覚えました。その後も女の子と間違えられることが続きました。その度に僕は本当の自分をわかってもらえないような気がして、辛く、悲しくなりました。確かに僕は髪を伸ばしていましたが、れっきとした男の子です。ただ髪が長い、というだけで周りの人は「女の子」とみなし、そのように接してくるのです。男は髪を伸ばしてはいけないのか？同じ人間なのに！僕は心の中でそう叫んでいました。しかし、その思いを人に伝える機

会もなく、誰にも助けを求めませんでした。つらかったけれど、だれかの役に立ちたい、という思いは強く、僕はヘアドネーションをやり遂げよう、と思いました。

そんなある日、親から転校を告げられました。まず頭に浮かんだのが、「男なのに髪を伸ばしている変な人」と思われませんか、ということでした。無視されたり、いじめにあつたりしないだろうか、と怖くなってきました。転校は初めてではないのに、不安でいっぱいになりました。

そして迎えた転校初日。ドキドキして前日は眠れませんでした。でも、以前、友達に受け入れてもらえたときのことを思い出し、自己紹介でヘアドネーションについて話すことができたのです。その後、すぐに話しかけて来てくれる人もいました。新しい友達もできました。やっぱり自分から話すことは大切だな、と実感しました。

そして、6年生の3月。やっと31センチメートルに髪は伸び、無事ヘアドネーションをすることができました。そのときの達成感は今でも心の中に残っています。しかし、それと同時に女の子に間違われてきた不快感もまた、心の中でくすぶっています。

私たちは人間です。同じ人間です。それなのに髪が長ければ女。そんな固定観念を持ってしまっているのでしょうか。皆さんは「性別違和」ということを知っていますか。それは、身体の性と心の性が一致しない状態のことです。僕はヘアドネーションを通じて性別違和を感じている人達の苦しみを少しだけ垣間見ることができました。僕たちの何気ない一言で傷ついている人がいるかもしれません。人を外見だけで決めつけず、内面まで含めた「1人の人間」として見る。そんな姿勢が大切なのではないでしょうか。みんながちょっとずつ変わっていくことで、少しずつ世界が変わっていくかもしれません。僕たちはそんな世界を目指すべきだと思うのです。



## 優 秀 賞

# 祖母のいない一週間

出雲市立南中学校  
3年 吉田 哲子

私の家には、86歳になる祖母がいます。私が生まれた時から、ずっと一緒に過ごしてきました。

そんな祖母が先日、入院してしまいました。すごく驚いたし、不安と心配で胸が押し潰されそうでした。

毎朝、

「いっておかえり。」

と優しく見送ってくれる姿が見えない1週間は本当に寂しくて、心にポッカリと大きな穴が開いたような気持ちになりました。

祖母は朝早く姉の送迎をする母に代わって、朝食の片付けをし、私が遅刻しないように送り出してくれていました。母が「無理しないでください。」と言っても、家族の一員として自分でできることはしなければと頑張ってくれていた姿を思い出し、感謝の思いがこみ上げ、胸が一杯になりました。

そばにいなくなって改めて、祖母がどれだけ私を支えてくれていたのかに気づいたのです。そんな祖母が以前、ニュースで報じられる高齢化社会について心配そうにこう言っていました。

「今、日本の社会の大きな問題は、近い将来、少子高齢化時代を迎え、2060年頃には4人に1人が75歳以上で、働く人が激減するそうだよ。高齢者が増えすぎて、社会でうっとうしいと思われるようになるかもね。」

私の住む南中校区では、曾祖父母、祖父母と同居している家庭は珍しくはありません。小学校でのクラブ活動、地域学習や登下校の見守り隊で私たちを支えてくださったのは、それぞれの家庭の祖父母の方たちでした。いつも優しく、根気強く、丁寧に教えていただき、楽しく学んだことを思い出しました。そして、人は年を重ねる中で、たくさんの経験をし、生きる知恵と全てのものを慈しむ心が深まるのだと感じました。

そうした祖父母に育てられた私たちの役割は祖母が心配するような社会を創らないための工夫と努力をすることです。今、私たちは若者ですが、誰一人例外なく、年老いていきます。これから私たちが生きる社会は、高齢者と若者が共に生きられる社会でなくてはならないのです。

私が目指したい社会、それは「働く世代と高齢者世代が共存、協働できる社会」です。高齢者を年寄り扱いせず、働きたい人には社会の先輩として、その人の知力、体力に合った仕事ができる社会の仕組みを整え、高齢者と若者が調和し、お互いに支えていくことが大切だと思います。

祖母の退院を機に、我が家でも話し合っ一人一人の役割を決めました。祖母には母と一緒に家事をしてもらい、力のいる仕事は父、物を運ぶのは姉と私が担当することになりました。協力し合うことで、家族でおしゃべりする時間が増え、今まで以上に祖母とのふれあいを楽しむことができています。

これから訪れる「少子高齢化社会」では、自立できる若者が求められると思います。私が考える「自立できる」とは、自分の個性を生かし、行動できることです。若者の行動力と高齢者の豊かな経験とを合わせれば、一人一人の個性を生かし合える社会の創造に向けて進んでいけると 생각합니다。

「私の個性とは何だろう……。」友だちの個性ならすぐに言えるのに、自分となると思ひ浮かびません。でも、誰と話す時でも、その人の気持ちになって一緒に考えられる人になりたいです。そして、そんな自分の個性を生かして、私も社会創りを進める力になりたいです。

誰かが幸せに暮らせる社会ではなく、誰もが幸せに暮らせる社会をきっと創っていけると信じています。

# 令和3年度 少年の主張島根県大会開催要項 (第50回 島根県少年弁論大会：動画審査会)

- 趣 旨** 中学生自らが社会の一員であることを自覚し、責任感に目覚め、健やかに成長することが求められている。この「少年の主張島根県大会」は、明日を担う中学生が日常生活を通じ、日頃考えたり感じたりしたことを広く発表することにより、中学生の自立心を育てる機会とするとともに、視聴する親や大人の青少年健全育成に対する深い理解・関心、協力を求めようとするものである。
- 主 催** 青少年育成島根県民会議 島根県中学校長会（主管：浜田市中学校長会）  
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
- 共 催** 浜田市教育委員会
- 後 援** 島根県 島根県教育委員会 島根県警察本部 浜田市  
浜田青少年健全育成推進会議 金城地域青少年健全育成連絡協議会  
青少年育成三隅町民会議 あさひ子ども健全育成協議会  
島根県PTA連合会 浜田市PTA連合会
- 開催日時** 令和3年9月28日（火） 10：00～15：00（受付9：45～）
- 開催場所** （主会場）島根県教育センター浜田教育センター 第3研修室  
浜田市長沢町1550-1 TEL 0855-23-6782  
（松江会場）島根県庁東庁舎 人権啓発推進センター 研修室  
松江市殿町128
- 発表者** 県内在住の中学生及びそれに相応する学籍又は年齢にある者（国籍は問わないが、日本語で発表できること）で、地区中学校長会長より推薦された者。（地区別の定員は別表のとおり）ただし、県大会開催地区に限り定員より1名追加して推薦することができる。（発表順は別途事務局にて抽選）  
**※各地区の弁論大会実施に際して、地区内に特別支援学校がある場合、地区大会事務局はその地区の特別支援学校にも地区大会の案内を送付すること。**
- 実施方法** 動画による審査会（撮影については「動画撮影の留意事項」参照）  
(1)発表時間 5分程度（6分以内を厳守）とする。（400字詰原稿用紙4枚程度）  
(2)発表内容 ①社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案など。  
②家庭、学校生活、社会（地域活動）及び、身の回りや友達との関わりなど。  
③テレビや新聞などで報道されている社会のさまざまな出来事に対する意見や感想、提言など。  

以上、3つの中のいずれかに該当し、心からの思いや考えたこと、感銘を受けたことなどを、中学生らしい自由でユニークな発想で、飾り気のない言葉でまとめたもの。  
また、商業的な固有名詞の使用は極力避けるようにする。

  
(3)動画の全部または一部は報道機関、ケーブルTV等により広報されることがある。
- 審査員** 別に定める。
- 表彰** 審査の結果、次の区分により発表者全員に賞状及び賞品を授与する。

島根県知事賞	1名（県代表）	島根県教育委員会教育長賞	1名
島根県警察本部長賞	1名	青少年育成島根県民会議会長賞	1名
審査委員特別賞	2名	優秀賞	10名

11. 発表作品の送料等 送付にかかる費用は主催者が負担する。(地区大会予算を増額)
12. 提出物及び提出先  
各地区中学校長会長は、下記別表に定める提出物を提出日までに、島根県民会議事務局まで提出する。  
**提出先** 青少年育成島根県民会議 〒690-8501 松江市殿町1 県庁青少年家庭課内  
 TEL：0852-22-6524 FAX：0852-22-6045  
 e-mail：nobinobi@shimane-youth.gr.jp
13. その他 県代表者の発表は中四国ブロック枠で発表原稿、録音した電子媒体で審査され、各ブロック代表者（2名）は、「第43回少年の主張全国大会～わたしの主張2021～」[主催：(独)国立青少年教育振興機構 令和3年11月14日（日）於：国立オリンピック記念青少年総合センター]に出場する。

提出物一覧（各地区代表中学校から送付）

	提出物	メ切	提出方法	留意事項
①	<b>発表原稿</b> 事前に審査委員へ送付する必要があるため	9/10 (金)	メール添付 またはFAX	手書きコピー・PDFファイル・データ いずれでも可
②	<b>発表者名簿【様式1】</b>		メール添付 またはFAX	必要事項を手書きで記入。 <b>昨年度のものと同様式を変更しています。</b> <b>必ず今年度のものを使用してください。</b>
③	<b>発表用原稿データ</b> （Wordデータ） （作品集作成、全国大会申込みに必要）	9/17 (金)	メール添付	当日発表用に修正、校正したもの。①と 語尾や表現等が変化していても可。
④	<b>顔写真データ</b> （作品集作成、全国大会申込みに必要）		メール添付	肩から頭までが入ったもの （身分証明書等に使用するもの）
⑤	<b>審査会用DVDデータ（2枚）</b> 1）ケーブルTV編集用 2）審査会再生用		郵送 （当日消印有効）	<b>2）については、必ず学校のDVD再生機 器で再生できるか確認すること。</b>
⑥	<b>発表用原稿（本人直筆、原本）</b> （清書したもの。 <u>原稿用紙4枚程度</u> ）		郵送 （当日消印有効）	原稿用紙は市販のもの。 400字詰原稿用紙A4版縦書き。 <b>コピーで はなく原本をお願いします。</b>

## 審 査 委 員

審査委員長	元山陰中央新報論説委員長	松本 英史 様
審査委員	元山陰中央新報特別論説委員	前田 幸二 様
審査委員	島根県警察本部生活安全部少年女性対策課 課長補佐	羽部 睦子 様
審査委員	島根県教育庁浜田教育事務所指導主事	佐々木成之 様
審査委員	青少年育成三隅町民会議会長	原田 和義 様
審査委員	浜田市PTA連合会母親委員長	宮家 敏子 様
審査委員	浜田市小学校長会会長	三浦 秀人 様



## 令和2年度(昨年度)の受賞者



### ◆島根県知事賞

「らしさ」を輝かせる

松江市立宍道中学校 3年 武 田 はぐみ

### ◆島根県教育委員会教育長賞

国境線とは？

浜田市立旭中学校 3年 稲 田 嘉 苑

### ◆島根県警察本部長賞

つながっている

津和野町立津和野中学校 2年 井 上 正 幸

### ◆青少年育成島根県民会議会長賞

変化する者

海士町立海士中学校 2年 中 村 詩

### ◆審査員特別賞

自分是一只だけの花

出雲市立河南中学校 1年 石 倉 謡

見えない凶器

奥出雲町立仁多中学校 3年 勝 部 瑞 穂

# 令和3年度 「少年の主張島根県大会」 地区大会概要一覧

地区名	学校数	出場枠	地区大会 開催日	地区大会 開催場所
松江	19	2	8月31日(火)	湖東中学校
安来	5	1	8月27日(金)	第一中学校
出雲	15	2	9月13日(月)	佐田中学校
雲南	7	1	8月30日(月)	三刀屋中学校
飯石	2	1	8月31日(火)	頓原中学校
仁多	2	1	8月30日(月)	仁多中学校
大田	6	1	9月1日(水)	志学中学校
浜田	9	2	9月1日(水)	浜田市立中央図書館
江津	4	1	9月1日(水)	江津市総合市民センター
邑智	6	1	9月9日(木)	みさと館
益田	9	1	8月31日(火)	グラントワ
鹿足	5	1	9月1日(水)	吉賀町林業センター
隠岐	7	1	9月7日(火)	隠岐島文化会館

\*開催地 浜田市は1名追加

# 令和3年度 少年の主張全国大会 審査結果

審査結果発表日／令和3年11月14日（日）

WEB開催期間／令和3年11月1日（月）～11月30日（火）

	ブロック	評価結果	県名	テーマ	氏名	学校名
1	北海道・東北		山形県	一步踏み出す	のぎき こ 野崎 さよ子	おぐにちようりつかのみずちゅうがっこう 小国町立叶水中学校
2			宮城県	私と僕と、そして「自分」	やまうち りら 山内 莉羅	おおさとちようりつのおおさとちゅうがっこう 大郷町立大郷中学校
3	関東・甲信越静		千葉県	自分の足元は	きくち やまと 菊地 大和	ちばしりつさらしなちゅうがっこう 千葉市立更科中学校
4		国立青少年教育振興機構理事長賞	群馬県	本物の輝き	とみた じゅか 富田 樹香	おおたしりつみなみちゅうがっこう 太田市立南中学校
5		文部科学大臣賞	山梨県	「心のマスク」をはずして	ひらさわ ほのか 平澤 朋佳	ほくとしりつこうりょうちゅうがっこう 北杜市立甲陵中学校
6	中部・近畿		滋賀県	自分の考えに対する意識	てらだ あい 寺田 愛	こくりつだいがくほうじんしがだいがく 国立大学法人滋賀大学 きょういっくがくぶぶぞくちゅうがっこう 教育学部附属中学校
7			京都府	スマホ人間	はやし さやか 林 紗花	きょうとこうかちゅうがっこう 京都光華中学校
8		内閣総理大臣賞	岐阜県	認め合うことの大切さ	ほそかわ とわ 細川 士禾	ようろうちようりつたかだちゅうがっこう 養老町立高田中学校
9	中国・四国		島根県	思い出のランドセル	とがせ こころ 梅瀬 真心	やすぎしりつはくたちゅうがっこう 安来市立伯太中学校
10			広島県	認め合うことの本質	みよし ももえ 三好 百恵	ひがひろしましりつしわちゅうがっこう 東広島市立志和中学校
11	九州	審査委員会委員長賞	熊本県	教室	くずたに まもる 葛谷 護	うきしりつまつばせちゅうがっこう 宇城市立松橋中学校
12		審査委員会委員長賞	沖縄県	私の挑戦	すなかわ えりか 砂川 恵里香	みやこじましりつひさまつちゅうがっこう 宮古島市立久松中学校

※全国大会開催要綱より抜粋

## 表彰

全国大会出場者全員（12名）に国立青少年教育振興機構理事長より奨励賞、全国大会出場者に選考されなかった都道府県代表者及び主催者推薦代表者全員に同理事長より努力賞を贈ります。

## 認め合うことの大切さ

岐阜県 養老町立高田中学校  
3年 細川 士禾

みなさん、もしあなたが、片腕のない人を見かけたら、どうしますか。声をかけますか。それとも、かけませんか。もし、あなたがお子さんと一緒にいるときならどうですか。「見ちゃだめだよ。」そんな声をかけますか。

僕の妹には、生まれつき片腕がありません。そのことで、妹はたくさんの辛い思いをしました。

—「あの子、手がないよ。」

今年の春、妹がある女の子から言われた一言です。妹は、どうしていいか分からないと、戸惑いと悲しみの表情を浮かべ、僕たち家族の前でわんわんと泣いていました。その姿は今でも僕の目に焼き付いています。それを見た母も、本当に苦しそうでした。まるで何もしてあげられない自分を責めるかのように、ただ泣いていました。そのときのことを思うと、胸がぎゅつと締め付けられます。ただ、みなさんに知ってほしいことは、妹は、このような経験を何度もしてきたということです。

そうした中、僕は自然と考えるようになっていました。もし、自分が、逆の立場だったらどうするのだろうと。妹と同じように、片腕がない人がいたら、足がない人がいたら…、僕はどうするのだろうと。

きっと、「見てしまう」と思います。なぜでしょうか。答えは簡単です。「自分と違うから」です。時に、「違う」ことは、問題を引き起こす原因にもなり得ます。しかし、「違う」と認識すること、これは、差別なのでしょうか。そもそも今年の春、妹の手がないと言った女の子。彼女に、相手を苦しめようとする意志はあったのでしょうか。きっと答えは、「NO」です。

僕は思います！僕たちはいつからか、「差別をしないこと」＝「何もしないこと」、ひいては、「目を背けること」だと、大きな勘違いをしているのではないかと。冒頭で話した、「見ちゃダメだよ」という発言も、このような勘違いか

ら生まれた言葉じゃないでしょうか。

違いを認識し、見て見ぬふりをすること、そして、何もしようとしないうこと、これこそが、大きな問題だと、僕は思うのです。なぜなら、僕たち人間は、違いを知るからこそ、その先のことを考えることができるはずだからです。

それから僕は、妹にかける言葉が変わりました。

「見られるのは当たり前だよ。だってさ、自分と違うんだから。」聞いた妹は、少しきょんととして、僕の顔を見つめていました。

僕も妹も母も、辛い経験を多くしてきましたが、考え方一つで、こんなに大きく傷付くことはなかったのかもしれない。相手は違いを認識しただけ。その先が何よりも大事です。僕たちも、もしかしたら、スタートラインに立っていなかったのかもしれない。

妹のおかげで、僕は大切なことに気付けたような気がします。差別とは、考えることをやめ、相手から目を背けることなのです。ですから、「見ちゃだめだよ。」に代表されるような言葉は、一見相手を思いやっているようにも見えますが、考える機会をただ奪うことにもつながりかねない、上辺だけの言葉なのです。ですから、僕たちは、まず、その人らしさを認め、違いを受け入れ、その上で、その人にとってどんな行動や考え方が必要なのかを考え、見つけ出していくことが、何よりも大切なのです。

妹がいてくれたからこそ、僕は目を背けず、考えることができました。

妹がいてくれたからこそ、僕は相手の気持ちを考え、行動することができました。

今の僕があるのは、まぎれもなく妹のおかげです。本当にありがと。僕は、これからも、妹が、そして、全ての人が、心から笑っているように、目を背けず考え続けます。その先に、差別のない社会があると信じて。



# あ と が き

令和3年度「少年の主張島根県大会」の報告書をお届けします。今年度の大会は昨年引き続き動画審査会となりました。県内13地区から選抜された16人の皆さんの発表を、事前に収録した動画を視聴し、審査しました。その発表は、対面とは違い様々な制約がある中、皆さん一人ひとりの気持ちが画面を通してしっかりと伝わるってくるものでした。

発表内容は、新型コロナウイルス感染症をきっかけに自分自身が考えたことや、いじめ、SNSによる誹謗中傷、国際問題や環境問題といった幅広いものとなりました。発表者の皆さんの実体験について語られる作品がたくさんあり、また、どの作品もレベルが高く、審査委員一同驚かされました。

この報告書には、県大会で発表された16作品と、全国大会で内閣総理大臣賞を受賞された作品を掲載しています。多くの皆さんに読んでいただき、発表者の思いが一人でも多くの方に伝わり、青少年育成に各分野で活かされることを願っています。

令和3年12月

令和3年度「少年の主張島根県大会」  
審査委員長 松本 英史

令和3年度 少年の主張島根県大会報告書

令和3年12月発行

編集 青少年育成島根県民会議

〒690-8501 島根県松江市殿町1番地（県庁青少年家庭課内）

TEL 0852-22-6255 FAX 0852-22-6045

<https://www.shimane-youth.gr.jp/>

E-mail : [nobinobi@shimane-youth.gr.jp](mailto:nobinobi@shimane-youth.gr.jp)

Facebook「青少年育成島根県民会議」



青少年育成島根県民会議  
シンボルマーク